

## 沢の徒渉訓練 セルフレスキュー講習会

(山城) 丹沢玄倉川

(コース) 玄倉川本流 檜洞沢

(日時) 6月20,21日

(天候) 晴れから雨

(参加者) CL上茂 SL渡邊 SL花島 SL辻本 加藤 石井 吉川 前田 萱野香  
澤田淳 小原 岸野 山内 鈴木憲 斉藤 寺門 薄井

(山行タイム) 20日ゲート前駐車場9:20~本流に下降10:40~講習開始11:00~林道に上がる12:30~ユースンロッヂ13:30~ビバーク地着14:00~ロープワーク講習開始15:00~17時終了、宴会22時就寝

21日4時起床 6時出発~7:30雨のため遡行中止決定 懸垂下降の練習~撤収10:30  
駐車場12:30

朝8時に山北のサークルKに集合ということでしたが、渋滞に巻き込まれた1台が9時前に到着し、特に問題なく出発。毎年梅雨時期に計画される講習会は雨でつぶれていたが、今年は奇跡的に晴れの予報で当日を迎えることが出来た。山は雲が多いものの日差しもある。ゲート前の駐車場には数台の車が駐車してあるが人影はなし。総勢17名の大行列で左下に玄倉川を見ながら林道を歩く。トンネル数箇所通過、新青崩隋道は中でカーブしており暗闇のためヘッドランプ必携。玄倉ダムは青く透明な水を湛えておりプールのような様子。河原に降りられそうな場所を見つけ、遡行準備。そこから入渓してゴーロ歩きの途中、深みのある場所でロープを使っての徒渉の仕方を渡邊講師から説明を受ける。本からの引用で末端交換三角法と呼ばれる徒渉技術。急流で困難な徒渉のときにより安全に渡る方法である。水の流れが不足でいまいち実感できなかったが、形だけでも覚え繰り返しやることが重要だ。





そのまま遡行を継続、同角沢出合以降も玄倉川の溪谷美を堪能しながら遡上。辺りが開け、堰堤が見えると林道へと導かれ、後はユーシンロッジまで黙々と歩く。



ユーシンロッジは閉鎖されているが、2部屋ほど開放されていて、炊事場も使用でき、トイレも水洗で管理されているようだ。昼食休憩の後、ロッジの裏手、山の神へ通じる急な石段を上り踏み跡を辿り、取水施設の裏から堰堤上になると、其処は唯一広い川原になっていた。17名の宿泊地にはちょうど良い。ここではまずタープの張り方を辻本講師から伝授。焚き火を起し米を水に浸し、一通り泊まりの支度が整ったところで、ロープワーク講習に入る。ライジングシステムで3分の1、5分の1、懸垂下降バックアップ方式など繰り返し行う。



翌日 4 時起床。どんよりした空、6 時出発を目標に準備する。出発前からポツリと来たが、とりあえず出発。テン場から山道を行くと石小屋沢出合に通じるようだが、沢から行ってみる。すぐに釜を持った滝があり、左岸にトラロープが下がっていたので、花島さんトップでロープをフィックスしてもらった。意外といやらしく、通過に時間がかかる。次の滝も水流沿いには行けず、右岸のトラバースルートは渡邊さんに通過してもらいロープをフィックス。ハング気味で悪く、これも時間がかかりそうなので左岸の高巻ルートと二手に別れたが、そちらも懸垂下降で下りなければならず、それでも分かれたことで時間のロスも少なかった。雨が本降りになってきた。貧相な石小屋沢出合過ぎると釜付の磨かれた滝に差し掛かり、滝の左側斜面がルートで、ロープを伸ばしてもらおうが、雨が本降りとなり、人数的にもきついと判断し、この滝を登ったところで打ち切ることにした。みんな上で揃ったところで、懸垂下降で下りる。帰りは登山道からテン場へ戻る。

講習と沢の過ごし方を学び、沢登りを楽しむ企画でしたが、檜洞沢の遡行できなくて残念。沢の訓練としては実践的な徒渉が出来なかったのは残念ではあるが、2 日目の短い遡行の中で滝の登りや懸垂下降など緊張感もあり、結構濃い内容で身になった部分はあったようだ。沢の要素に触れることの出来た 2 日間ではあったと思う。

